

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

計画

学校名 佐賀県立佐賀商業高等学校定時制課程

1 前年度評価結果の概要 ○わかる授業を目指し、生徒の意欲を高め、確かな学力を育成するために、具体的な取組みにおいて、見直し、更なる工夫をしていく必要がある。
 ○生徒の主体的な取組みについては、更なるレベルアップを図る必要がある。

2 学校教育目標 SDGsの理念のもと、持続可能でよりよい世界の実現を目指した質の高い教育を行う。各学科の特色を生かし、自治体・高等教育機関・地域の産業界等との協働・連携による実践的かつ探究的な教育活動の充実を図り、グローバルな視点でコミュニティーを支える地域のリーダーを育成する。また、Society5.0時代の到来により、地域社会・国際社会に貢献できる商業人として、必要な知識と技術を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身に付けさせるとともに、何事も自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標 (1) 「他者を思いやる」発言や行動ができる生徒を育成する (2) 自ら学ぶ姿勢を育み、確かな学力を育成する (3) 自分の考えをわかりやすく伝えることができる生徒を育成する
 (4) 地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する (5) 働き方改革を推進し、教育の質の維持向上を目指す

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上	○学びの基礎診断テストの平均GTZ(学習到達ゾーン)が、昨年度より向上した生徒の割合を30%以上とする。 ○主体的に対話的な深い学びとなる授業改善を行う。	○学びの基礎診断テストの平均GTZ(学習到達ゾーン)が、昨年度より向上した生徒の割合を30%以上とする。 ○主体的に対話的な深い学びとなる授業改善を行う。	・9月を学力定着強化月間とし、国語・英語・数学の15分間の指導を毎日実施する。 ・シラバスの見直しや改善を通して、生徒が主体的にかつ深い学びができるような授業改善に取り組む。					
	○資格取得の奨励	○検定取得に対する意欲を高め、検定の合格率80%とする。	○検定取得に対する意欲を高め、検定の合格率80%とする。	・商業に関する科目を選択している生徒に対して検定取得への挑戦を促し、検定合格のための支援を充実させる。					
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者を思いやることの大切さに気づく生徒を80%以上とする。	○他者を思いやることの大切さに気づく生徒を80%以上とする。	・スクールカウンセラーによる心の授業や、各種講演会を通して、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・性に関する講演を実施する。					
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員を95%以上とする。	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員を95%以上とする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)を年間に2回以上行う。					
	◎佐賀を誇りに思う教育の充実	◎講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数を80%以上とする。	◎講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数を80%以上とする。	・本校の歴史や、佐賀の自然などについての講演を行う。					
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を70%以上とする。	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を70%以上とする。	・ホームルーム活動等で、給食を題材とした指導や食育講話を実施する。 ・「給食だより」「保健だより」、掲示物を活用し情報提供する。 ・担任と連携し、生徒の食習慣や生活習慣を把握する。 ・学校医、保護者、関係機関と連携し、健康教育や保健指導を実施する。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間年次休暇取得日数14日以上の職員割合55%以上とする。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間年次休暇取得日数14日以上の職員割合55%以上とする。	・校内LAN、クラウドで情報共有を行い、業務の効率化を図る。 ・職員会議や分掌会議の時間を設定し、会議の効率化を図る。 ・学校閉庁日を設定する。 ・働き方に対する価値観の転換を図る。					

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校作り	★修学旅行プロジェクトI・IIの実施	★事後アンケートにおいて生徒満足度80%以上を目指す。	★事後アンケートにおいて生徒満足度80%以上を目指す。	・生徒自身が行き先や日程等について調査、研究し、企画案を作成する。 ・修学旅行プランについてのプレゼンテーションを実施し、行き先を決定する。 ・修学旅行報告会を実施する。					
	★生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の実施	★この学校で学んでよかったと思える生徒の割合70%以上を目指す。	★この学校で学んでよかったと思える生徒の割合70%以上を目指す。	・担任と教科担当で、密に情報共有を行い、きめ細かな生徒の支援を行う。					
○学校生活への意欲向上	○キャリア教育の充実	○年度内に卒業予定者全員の進路先及び就職先を決定する。 ○進路意識向上に資する卒業生等の講演や説明会を2回以上開催する。	○年度内に卒業予定者全員の進路先及び就職先を決定する。 ○進路意識向上に資する卒業生等の講演や説明会を2回以上開催する。	・担任や生徒や保護者との情報共有を密に行い、各生徒の進路目標に応じた情報収集と情報提供を行う。 ・本校卒業生や学校関係者、ハローワーク等々と連携し、生徒が身近に実感できる講演、説明会を実施する。					
	○ルール・マナー、規範意識の醸成	○ルールやマナーの遵守などと考える生徒を80%以上とする。	○ルールやマナーの遵守などと考える生徒を80%以上とする。	・みだしなみ確認を年間4回行う。 ・生徒生活アンケート年間3回行う。 ・その場に応じた言葉が及ぼす影響を伝え、他者に対して思いやりの言動ができるように全職員で指導を行う。 ・情報モラルに関する講演を行う。					
	○生徒会活動の充実	○生徒会活動での計画準備、役割分担を行い、学校行事の充実を図る。 ○校外ボランティア活動を年間2回以上実施する。	○生徒会活動での計画準備、役割分担を行い、学校行事の充実を図る。 ○校外ボランティア活動を年間2回以上実施する。	・生徒会活動の実施計画や運営方法を確認、再検討する。(特に体育祭、クラスマッチ、卒業生を送る会) ・生徒会を中心に校外清掃、献血や募金活動の校外ボランティア活動を行う。					
○特別支援の充実	○教職員の専門性の向上と共通理解の深化	○情報交換会等や研修会の内容を個々の生徒への対応に生かすことができたと感じる職員80%以上とする。 ○教育相談担当者会を月2回以上実施する。	○情報交換会等や研修会の内容を個々の生徒への対応に生かすことができたと感じる職員80%以上とする。 ○教育相談担当者会を月2回以上実施する。	・毎月の生徒情報交換会を充実させる。 ・教育相談担当者会での情報交換及び共有を充実させる。 ・生徒が職員に相談しやすい雰囲気づくりを心がける。 ・職員研修で専門性の向上を図る。					

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望